

## 診療科(講座)紹介

URL <http://www.fmu.ac.jp/home/cvsurg1/index.html>

- 1) 教室の方針：他科との連携をはかりながら明るく楽しく仕事をこなし、10年で一人前になれるよう教育する方針です。
- 2) 東北屈指の手術数：最近5年間の手術数は増加の一途を辿っています。現在、開心術は、170例、総手術数は320例です。手術枠の増加に伴い今後も増加が見込まれます。また、関連病院全体の手術数も増加しており、十分に症例数は確保できます。
- 3) 全国屈指の手術成績：心拍動下冠動脈バイパス手術や大血管のステントグラフト治療、順行性脳灌流を用いた脳保護、また、僧帽弁形成術や下肢静脈瘤に対する半導体レーザー治療など低侵襲でQOLの高い手術をめざし、手術成績は良好です。

## 指導医(スタッフ)紹介



部長(教授)  
横山 斉

昭和52年 新潟県立新潟高等学校卒業  
昭和58年 東北大学医学部卒業  
東北大学大学院卒業(医学博士)  
国立水戸病院  
東北大学医学部附属病院  
青森県立中央病院  
Medical College of  
Pennsylvania/Hahneman University  
臨床専門分野  
1) 心臓血管外科(冠動脈、弁膜症、胸部大動脈)  
研究分野  
1) 心拍動下手術  
2) 低侵襲手術  
3) 心臓移植  
趣味：スキー、ゴルフ

## 学会活動

- 1) 日本心臓血管外科学会(理事)
- 2) 日本冠動脈外科学会(評議員)
- 3) 日本胸部外科学会(指導医、認定医、会誌査読委員、評議員、専門医制度委員会委員)
- 4) 日本循環器学会(全国評議員、会誌査読委員)
- 5) 日本移植学会
- 6) 日本人工臓器学会
- 7) 日本冠疾患学会
- 8) 日本血管外科学会
- 9) 日本脈管学会
- 10) International Society of Cardiovascular Surgery
- 11) International Society for Minimally Invasive Cardiothoracic Surgery



副部長(准教授)  
佐戸川弘之

昭和50年 福島県立福島高等学校卒業  
昭和56年 福島県立医科大学卒業  
医学博士(福島県立医科大学)  
福島県立会津総合病院、福島赤十字病院  
臨床専門分野  
1) 心臓血管外科 弁膜症から大血管までの外科治療  
2) 末梢血管、静脈の外科  
太い血管から細い静脈、静脈血栓症や静脈瘤までの幅広い治療  
研究分野  
1) 低侵襲血管外科治療  
2) 血管内治療の研究静脈血栓症の予防から治療まで  
3) 静脈瘤のレーザー治療



助教 佐藤 善之

平成4年 福島県立福島高等学校卒業  
平成12年 福島県立医科大学卒業  
国立仙台医療センター、太田西ノ内病院  
臨床専門分野  
1) 心臓血管外科(冠動脈疾患、弁膜症、大動脈疾患)  
2) 末梢血管疾患  
研究分野  
1) 心拍動下冠動脈バイパス術における心表面運動解析、及び冠動脈吻合への影響  
2) 脳分離体外循環における脳保護法  
趣味：音楽鑑賞、読書、スポーツ観戦



講師 高瀬 信弥

昭和57年 福島県立安積高等学校卒業  
平成元年 福島県立医科大学卒業  
医学博士(福島県立医科大学)  
カリフォルニア大学、サンディエゴ校留学  
臨床専門分野  
1) 心臓血管外科(冠動脈、大血管(ステントグラフト)、弁膜症、不整脈)  
2) 末梢血管手術、血管内治療  
3) ペースメーカー、心不全治療(ICD、CRT-D)  
研究分野  
1) 虚血性疾患における血管新生療法  
2) 大血管外科におけるステントグラフトの応用・改良  
3) 心房細動における外科治療の改良  
4) 微小循環における内皮・白血球相互作用の研究  
趣味：自転車、ランニング、ゴルフ、PC



講師 若松 大樹

平成4年 栃木県立栃木高等学校卒業  
平成11年 福島県立医科大学卒業  
福島県立会津総合病院  
臨床専門分野  
1) 心臓血管外科(先天性心疾患)  
研究分野  
1) 小児心臓手術  
2) 弁膜症の治療  
3) 冠動脈疾患を有する腹部大動脈瘤の治療  
趣味：スポーツ観戦、ツーリング

## 後期研修(専門医養成コース)プログラム

	修得すべき手技や手術経験目標数など
1年次 (卒業3年)	1) 胸骨正中切開および閉胸(術者20例) 2) 人工心肺装着(第一助手10例) 3) ペースメーカー手術(助手10例) 4) 中心静脈カテーテル挿入(術者30例) 5) 末梢動脈吻合、静脈瘤(術者各10例) 6) 地方会発表
2年次	1) 人工心肺装着(術者20例) 2) 低リスク心臓手術(第一助手10例) 3) ペースメーカー手術(術者10例) 4) 末梢動脈バイパス術(術者10例) 5) 静脈瘤手術(術者10例)
3年次	1) 単純心奇形手術(術者5例) 2) 低リスク心臓手術(第一助手10例) 3) 胸骨正中切開および閉胸(指導助手10例) 4) 人工心肺装着(指導助手10例) 5) 腹部大動脈瘤(術者5例) 6) 末梢血管手術(術者および助手20例) 7) 全国学会発表
4年次	1) 大動脈弁置換術、単純心奇形手術(術者10例) 2) 中リスク心臓手術(第一助手20例) 3) 腹部大動脈瘤手術(術者および指導助手10例) 4) 末梢血管手術(術者30例) 5) 論文作成発表

## 大学院・留学について

### 【海外学会参加について】

後期研修2年次には5月に開催される米国胸部外科学会に参加し、世界の最先端の技術にふれる。

### 【大学院について】

後期研修システムの中に学位併願型コースがあり、外科専門医取得と博士号取得が同時に可能となっている。勿論、希望する研修医には1年次に大学院の試験を受けて、2年次から大学院に入学することは可能である。しかし現状は、臨床研修で専門医取得の目安がつきより深い研究に興味がある3～4年次から大学院に入学している研修医が多い。

### 【留学について】

外科専門医、心臓血管外科専門医を取得し、博士号を取得した後に、本人の希望があれば海外、国内を問わず是非留学していただきたいと考えている。専門性を高め、広い視野を得る意味で大変重要な経験であり、その経験を是非大学の発展のために還元していただきたい。

## 専門医受験資格のために必要とされる技能・手技目標

- 1) 医の倫理に基づいた適切な態度と習慣を身につけ、患者さんと信頼関係を築くことができる。心臓血管外科診療の適切なインフォームドコンセントを得ることができる。真摯な態度で他科の医師およびコメディカルスタッフと触れ合い、協力して診療にあたることことができる。心臓血管外科診療はチーム医療であることを理解し、協働性をもって指導医および下級医と接することができる。研修医や学生に診療の指導をすることができる。
- 2) 心臓血管外科学の進歩に合わせた生涯学習を行なう方略の基本を習得し実践できる。臨床および研究に対する問題解決のため自ら資料の収集や文献検索を行うことができる。カンファレンスや学会で自分の意見を積極的に述べ、また質問することができる。学会や学術出版物に症例報告や臨床研究の結果をまとめて発表することができる。学術出版物や研究発表について、これを理解し批判的吟味をすることができる。
- 3) 心臓血管外科領域における局所解剖および病態生理を理解し、集中治療および全身管理を行なうことができる。救急・救命医療について理解し、循環器領域の急変時蘇生術および対処を的確に行なうことができる。緊急手術の適応を的確に判断でき、これに対応できる。
- 4) 心エコー、Swan-Ganzカテーテルの挿入をスムーズに

行なうことができ、循環動態を的確に評価することができる。心臓カテーテル検査や心血管造影検査を習熟し、心臓血管外科領域の画像診断にも精通しており、診断治療の計画を立てることができる。

- 5) 開胸閉胸術、血管露出術、血管吻合術、体外循環の構築および離脱、基本的心臓手術手技を習熟している。先天性心疾患、後天性心疾患、大血管疾患、末梢血管疾患、心不全、不整脈などの病態生理を理解し、心臓血管外科診療に必要な基礎知識を習熟しており、臨床に即した対応ができる。

## 後期研修協力病院

	関連病院名	所在地	指導医名	職名
1	太田西ノ内病院	郡山市	丹治 雅博	部長
2	星総合病院	郡山市	高橋 昌一	部長
3	会津中央病院	会津若松市	渡辺 正明	部長
4	総合南東北病院	郡山市	菅野 恵	部長
5	大原医療センター	福島市	萩原 賢一	部長
6	福島赤十字病院	福島市	安藤 精一	部長
7	福島第一病院	福島市	小川 智弘	部長
8	米沢市立病院	米沢市	北村 正敏	部長
9	いわき共立病院	いわき市	廣田 潤	部長

## 指導医からのメッセージ

●医局の雰囲気：教授を筆頭に若いスタッフが多く、和気あいあいとした雰囲気。医局員16名の約半数は研修医で、医局に活気があります。皆元気がよく、カンファレンスでも年齢に関係なく自由に意見を述べられる雰囲気です。また、他科との連携が良好で、循環器内科と心臓血管外科は同じ病棟に移転し循環器センターとして内科外科の垣根をとりはらって臨床に臨んでいます。麻酔科やコメディカルとの連携も良好で、それが良好な手術成績の一因でもあります。2008年からドクターヘリ、救命救急センターの運用が開始された結果、緊急手術も著増しており、ますます手術症例が増えると同時に他科との連携が求められています。

●臨床研修について：若い医師が手術に入る機会を多くしようと医局全体で考えています。手術症例数は増加の一途を辿っており、研修協力病院も増加しています(過去6年間に、星総合病院、太田西ノ内病院、いわき共立病院、会津中央病院が参加)。10年で一人前の外科医に育てるために、術者の経験も振り分けています。指導医による指導体制の下、医局の中堅(心臓外科専門医修練中=主治医クラス)が診療の中心となり、研修医も大学や関連病院での手術機会に恵まれています。大学病院全体で、研修医の雑用を減らすべく取り組んでいます。消化器および呼吸器、小児外科などの研修は大学内でも関連病院でも各外科系講座が連携しています。

●心臓血管外科について：当科においては2001年に新しい教室になってから魅力的な心臓血管外科を確立すべく教授を先頭に頑張ってきました。手術成績が良好なので術後管理もルーチン化し手術数が増えるという良い循環になっています。よって、若手から手術をする機会が増えると同時に、以前より時間的余裕もできました。また経済的にも医師・研修医の生活が安定するよう配慮されています。福島県はまだ心臓血管外科医が不足しています。高齢化が進む中で症例数は増加し、今後ますます社会に求められる専門科です。一度経験すれば、心臓外科の「やりがい」のすばらしさ、「人の命を救う実感」に人生を賭ける仕事であることがすぐに分かります。医学生・研修医を問わず進路相談などいつでも歓迎します。